

# くに し てい し せき たけ だ し やかた あと み そ くる わ ち てん 国指定史跡武田氏館跡(味噌曲輪地点)

永正16年(1519)、<sup>たけ だ のぶ とら</sup>武田信虎が<sup>かわ だ やかた</sup>石和の川田館(現甲府市川田町)から、三方を山に囲まれ天然の<sup>よう がい</sup>要害を形成していた相川扇状地開析部に新たに<sup>きよ かん</sup>居館を築き、<sup>やかた</sup>家臣や国衆を館の周囲に集住させ、新たな<sup>ふ ちゅう</sup>府中建設を開始しました。この居館が一般に「<sup>つづ</sup>躑躅が<sup>さき やかた</sup>崎館」と呼ばれ、現在の国指定史跡武田氏館跡の中核となります。武田氏の拠点は、一時、<sup>たけ だ かつ より</sup>武田勝頼による<sup>しん ぶ じょう</sup>新府城(韮崎市)築城により移転しますが、戦国大名武田氏滅亡後に再び躑躅が崎館は利用されます。織田氏から徳川氏、豊臣氏へと領主が変わる中、慶長年間に<sup>いち じょう こ やま</sup>一条小山に築かれた<sup>こう ぶ じょう</sup>甲府城が完成するまでの間、<sup>ばい おう ぐる わ</sup>躑躅が崎館は<sup>てん しゅ たい</sup>梅翁曲輪の増設、天守台の築造などの改修を繰り返し、現在の武田氏館跡へと変遷を遂げます。

(甲府市教育委員会)